

全国ろう重複児・者家族連絡会通信

えるで ～大地～



□発行／全国ろう重複児・者家族連絡会

□編集／「えるで」編集委員会

□〒198-0042

東京都青梅市東青梅1-7-4-167

東京ろう重複者とあゆむ会 内

全国ろう重複児・者家族連絡会

TEL/FAX 0428-22-4068

Eメール：ayumukai.tokyo@gmail.com

★お気軽にお問合せください★

新たな年を迎え、皆さまにとって本年に多幸がありますようにお祈り申し上げますとともに、酷寒の地方では猛烈な積雪で大変な生活を余儀なくされていると思われますが、順調に暮らしの復興が進むよう願ってやみません。また、「えるで」に対しいつもあたたかい応援をいただき、1月号が第61号の発行となります。1月を異名では睦月（むつき）と呼び、由来はお正月に家族や親戚が集まり睦み合う（仲良くする）ことだそうです。「えるで」をあたたかく応援してくださる皆さまと、ファミリーとして仲睦まじく情報の共有や、やり取りが出来たらよいと考えています。本年もよろしくお願いいたします。

全国ろう重複児・者家族連絡会役員・事務局一同

迎春



沼津西端から見た
富士山ベストビューポイント
（撮影：伊藤史子氏）

全聴福研ひょうご集会参加者からの声

昨年11月30日～12月1日に開催されました第28回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会ひょうご集会の第5分科会「家族の願いと家族会」参加者からの感想を紹介します。

「全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会に参加して

鳥取県聴覚障害者協会 荒木真矢



初めて参加をした、鳥取県の荒木真矢です。分科会を選択する際に「家族の願いと家族会の役割」というテーマに惹かれ、第一希望で申込みをしました。ご家族の思いを直接お伺いしたい、一緒に活動をされている方の動き方を盗みたい、そんな思いで参加いたしました。初日は緊張しましたが、和やかな雰囲気でも何よりも参加されているみなさまが本当に仲良く、そして右も左もわからない私をとて温かく迎え入れてくださいました。そのおかげで緊張もほぐれ、楽しく学ぶことができ有意義な研修となりました。ありがとうございました。普段は手話通訳者として、きこえない・きこえにくい人と関わっておりますが、当事者だけではなくご家族の方への支援の必要性を日々感じておりました。

そんなときに、家族会の存在を知ることができ、みなさまにお会いすることができました。「一人ぼっちの親をなくそう」というスローガンが心に響きました。ご家族が集う場があり、悩みや不安を打ち明ける仲間がいて、一緒に運動する力となること、それを実現されてきたみなさまの生の声や体験談を伺い感動いたしました。イベント企画のアイデアがすごすぎて、なかなか真似はできませんが、今自分にできることをしっかりと考える良いきっかけとなりました。鳥取県に戻ってすぐ、相談員と情報共有をし、副会長の山本様から情報提供いただきました。「えるで」も共有いたしました。一人でも多くのご家族の目に留まることを願い、日々持ち歩いております。また、みなさまとお会いする機会がありましたら、積極的に参加させていただきたいと思いますので、その際はどうぞよろしくお願いいたします。

「家族の願いと家族会の役割」に参加して

飯塚わかな



今回はじめて、全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会に参加させて頂きました。恥かしながら、右も左も分からず、案内されるがままに、第5分科会の椅子に座っていました。そんな私でしたが、今回集会に参加させて頂き、様々な学びがありました。感謝の気持ちも込めまして、感想を述べさせていただきます。

私は、ろう学校に勤務する教員です。教員2年目で、重複学級を担任しています。集会の参加動機は、今担任しているろう重複の子供たちが、将来どのようなところで暮らし、働き、どのように過ごしていくのかを知りたいと思ったためです。今回、分科会に参加して、家族の皆さんのお話を聞く中で、ろう重複児・者を取り巻く現状を知ることができました。私が印象に残った事柄について挙げさせていただきます。

- ・ろう学校に在籍するろう重複児と知的（肢体）特別支援学校に在籍するろう重複児がおり、ろう重複児としてつながることが難しい。また、つながろうとしても、個人情報のハードルがある。
- ・埼玉のどんぐりや大阪のなかまの里等のろう重複者の施設は、当事者（保護者）中心の運動によって設立することができた。運動には地域差があり、そもそもう重複児・者の人数が少ない地方では運動すること自体が簡単ではない。

・子ども親も高齢化しており、これまで同様に活動し続けることに不安がある。
これらの課題は、どれもすぐに解決できることではないかと思いますが、学校現場でも共有し、同じ課題意識をもちながら進んでいければと考えています。

成長や幸せを願いながら、ろう重複児に向き合い、やりとりを交わしながら共に過ごす教員という仕事は、私にとってやりがいのあるものです。今回分科会に参加して、自分の仕事の責任の大きさを改めて実感するとともに、誇らしくも感じました。これからも、より一層励みたいと思います。

最後になりましたが、集会および分科会の運営にご尽力いただいた皆様に心からお礼申し上げます。



全聴福研究にひょうご集会第5分科会に参加して

そよかぜ広場（宮城） 伊藤史子



共同研究者のお一人め中村克己先生は大阪ろう学校に勤務しながら若い時から大阪聴覚障害者協会にも所属し、大阪のろうあ者・ろう重複障害者問題をユーモアも取り入れ活発に活動なさった事を伺い一家1人各県に1人いると良いのになあと考えた方でした。



お二人めは滋賀県聴覚障害者協会理事長で昨年まで全日本ろうあ連盟の理事長を15年なさった石野富志三郎先生。先生のお子さんが重度身障者で亡くなったと伺い驚き、先生から「なので皆さんの苦勞と親の思いは分かります!」との言葉にうれしく有り難く思いました。お二人のお話から信念と行政を動かす活動、国レベルの活動に必要な事をお教え頂きました。

写真は、全聴福研の会場近くの公園をたまたま散歩したときに撮った写真です。阪神淡路大震災の慰霊・復興の碑がありました。写真の右手前の円の中のオレンジ色は復興を願い「心をひとつに」の思いを伝える火種です。左奥に見えるレンガ作りのモニュメントの地下には震災で亡くなった方々のネームプレートがありました。思いがけない公園での出会いでした。30年の歳月が過ぎたのですね。



昨年12月14日(土)にさいたま市「レイボックホール」で開催されました社会福祉法人埼玉聴覚障害者福祉会・同後援会の設立三十周年記念大会一粒のどんぐりから“From one acorn”に参加しての感想を報告します。

はじめに、社会福祉法人埼玉聴覚障害者福祉会並びに同後援会が設立三十周年を迎えられたこと、誠におめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

さて、記念大会は二部形式となっていて、第1部は式典、第2部は「ふれあいの里・どんぐり」、「春里どんぐりの家」の仲間たち、「ひとつ星・さかど」の子どもたち、そして「ななふく苑」の入居者からの舞台発表でした。

式典冒頭の永井紀世彦理事長の挨拶では、法人と後援会の前身である「どんぐりの会」の結成(1985年6月)からこれまで手掛けてきた8つの施設や事業所開所に到る沿革の紹介がありました。「今後も聴こえない人たちが安心して暮らしていけるようにするための事業運営を進めていきます」とのお話でした。

次に表彰状授与。法人と「ふれあいの里・どんぐり」設立の大きな原動力となり、開所後の施設運営や後援会の行事やイベント等の取り組みにも尽力し法人及び後援会の発展に貢献したさいたま市聴覚障害者協会、さいたま市手話通訳問題研究会、さいたま市手話サークル連絡協議会等の関係団体や個人が表彰されました。「ふれあいの里・どんぐり家族会」は永年会長をされてきた水村幸子さんが家族を代表して表彰状を受け取りました。家族会の皆様おめでとうございます。



来賓挨拶には清水有人さいたま市長も出席し「今年度は障害者差別解消法が改正され、障害のある人への合理的配慮が義務化されるなど、障害者の自立と社会参加に向けた法の整備が進んでいる。聴覚障害者への支援において先進的な役割を担って来られた貴法人に感謝申し上げます」との祝辞を述べました。

また、表彰を受けた漫画家山本おさむ氏からは漫画『ビッグコミック』に連載され、後にアニメ映画化もされた『どんぐりの家』の制作に到る経緯等が話されました。山本氏は話の中で、実在する大宮市内のろう重複障害を抱えた子どもを中心にまわりで支えた家族やろう学校の教師など関係者たちの心情を様々な角度から描きたいと思い、漫画を執筆するにあたっては、全日本ろうあ連盟に出向き書籍を全部購入し読書、またろう重複障害を抱える家族の家を訪問し家族から直接話を伺っていたとも話されていました。山本氏は現在も後援会イベントへの協力等、法人、後援会の発展に貢献されています。

第2部発表では、「ふれあいの里・どんぐり」と「春里どんぐりの家」の仲間たちや「ひとつ星・さかど」の子どもたち、そして「ななふく苑」の入居者たちから、今の生活での楽しみや楽しかったこと、これからもっとやりたいことなどそれぞれに発表がありました。発表の中でとくに印象に残っている言葉は「自分は80歳まで『ふれあいの里・どんぐり』で過ごし80歳になったら『ななふく苑』で生活することが夢です」と発表した仲間の言葉でした。埼玉での積み上げられた歴史30年間の一齣を感じました。

私たち家族連絡会では、「暮らしの場・日中活動の場をつくる」こと、また「ひとりぼっちの親をなくす」、「いっしょに活動できるなかまを増やす」ことを活動目標の中の重点テーマに掲げていますが、その目標達成のためにこれからも日々の活動をコツコツと積み上げていきたいと考えています。

事務局から

◇拡大拠点会議開催について

開催日時：3月19日（水）10時00分～12時00分

※Zoom 会議にて開催。

※開催案内や会議の内容については、えるで2月号にてお知らせします。

◇2025年度総会について

開催日時：6月29日（日）13時00分～16時30分（予定）

開催場所：浜松市福祉交流センター

（昨年度総会と同じ会場を予定）

※開催案内（開催要項・総会資料・申込書等）の準備ができましたら、追ってご案内をいたします。

まずは総会開催日を予定に入れておいてくださるようお願いいたします。



謹賀新年



あけまして
おめでとうございます



お汁粉餅



お汁粉



みかん

たましろの郷
なかまの作品



へび

【新規入会・継続更新ありがとうございました】

2024年度 個人会員数 49 団体会員数 15 (2025年1月20日現在)

◇2024年12月21日～2025年1月20日に入会・継続いただいた方
個人会員2名：福井 直 笠原喜由 (敬称略)

【入会のご案内】

郵便振替：口座記号 10100 口座番号 25727111

口座名義：全国ろう重複児・者家族連絡会

年額会費：個人正会員一口 2,000 円 個人賛助会員一口 1,000 円

団体会員一口 5,000 円 団体賛助会員一口 3,000 円

〒198-0042

東京都青梅市東青梅 1-7-4-167 全国ろう重複児・者家族連絡会事務局

TEL/FAX: 0428(22)4068

e-mail: ayumukai.tokyo@gmail.com

【青梅の里から】

昨年は大阪と埼玉の法人設立 30 周年であり、息子も 30 歳になりました。息子が生まれた年に設立された法人が、多くのご苦勞を乗り越えてきたことを思うと、感慨深いものがあります。息子が保育園に通っているとき、『どんぐりの家』の映画ポスターを見かけ、ろう重複障害についての説明がありました。同じ障害を持つ子供がいることに驚いたことを思い出します。今年は皆様にとって良い年になりますように！
(大島淳子)



レイアウト編集：宮 由美
(とちぎ“ひびきの会”)